

## 豆類ラック乾燥施設 新設工事 建築設計条件書

1. 目的 別途行われる建設工事の入札に必要な設計図書の作成を目的とする。  
なお、建設工事の発注は建築工事、電気設備工事、機械設備工事となり、  
その発注区分で設計図および設計予算書の作成が必要となる。

2. 建設場所 豆類ラック乾燥施設 プラント工事 最終条件書による

### 3. 基本条件

#### (1) 建築設計業務範囲

- (a) 機械棟の意匠・構造・電気設備・機械設備の設計図作成。
- (b) 機械棟の設計予算書の作成。なお、発注区分毎の設計予算書作成となる。
- (c) 上記に係る構造計算書の作成。
- (d) 建築物の確認申請図書作成（各種適合性判定も含む）および確認済証交付までの  
確認検査機関および消防同意対応。

※上記記載以外の受電設備増改造の設計業務はプラント設計に含む。

【参考】建設工事の発注区分は次の通りとなる見込みである。

- ・ 建築工事（機械棟）
- ・ 電気設備工事
- ・ 機械設備工事（燃料タンク、サービスタンク等）

※既存受電設備増改造の設計および工事は別途集出荷貯蔵施設側とするが、動力容量  
の資料提供等の設計協力を行うこと。

#### (2) 業務日程

令和7年7月21日建築物の確認申請提出予定。

令和7年8月18日に成果品を施主に納品する。

ここでいう成果品とは、設計図一式、設計予算書一式、積算数量調書、構造計算書  
のことをいう。

#### (3) 設計方針

豆類の荷受から出荷まで必要なプラント設備を収容する建物を建設するために、各  
部作業、メンテナンス等の支障が無い程度に必要な最低限の間取りとすること。

内外装の意匠や仕上げ等については隣接する「令和元年 産地パワーアップ事業  
麦類乾燥調製貯蔵施設 新設工事」を基準とすること。

建築基準法はもとより、消防法など各種関係法令を遵守すること。

機械棟上部階層のフロアはエキパンドメタルを基準として、豆類のこぼれ対策が必要な所は別材料を検討する事とする。

ただし、上部階層が階数・床面積に算入されて建築基準法における避難規定や防火規定、消防法における消火設備などの増高が無い様、所管行政庁などと建築確認申請提出前に充分協議を行う事。

#### (4) 構造方針

別に提示する地盤調査報告書に基づき、適切な基礎設計を行うこと。

上部構造体は鉄骨造とし、内部に配置するプラント設備と干渉が無い様な構造計画を行うこと。

#### (5) 積算方針

北海道建設部営繕工事積算要領に基づき、数量の積算を行う。

使用する単価は網走市の指示による。

#### (6) 除外範囲 開発行為設計、外構設計

### 4. 建物条件

#### A. 機械棟

- (1) 外 装
  - ・屋根：超耐候性鋼板システム防水 t=0.4 (フラットタイプ) 木毛セメント板 t=25 下地
  - ・外壁：一般部 長尺角波カーガル鋼板 t=0.4 mm (水密工法)
  - 屋根水下部 長尺角波カーガル鋼板 t=0.4 mm (水密工法)
  - 木毛セメント板 t=20 下地
  - ・鉄筋コンクリート FL+1.0m、外装薄塗材E仕上
- (2) 荷受室
  - ・荷受けホッパーを1基設置するため、地下ピットを設ける。
  - ・荷受荷姿はコンテナ W1735×D1092×H1350mm となる。
  - ・地下ピットは防水および結露対策を講じることとするが、釜場は設ける。
  - ・地下ピットへの昇降は階段とする。
  - ・荷受室天井には防鳥ネットを貼る。
  - ・荷受室は既存倉庫と接続する。(既存倉庫の外壁一部撤去)
  - 増築となるが、既存とは構造上縁を切ること。
  - ・床の防塵塗装などは不要。
  - ・荷受ホッパー前白線引きを行う。

- (3) 出荷室
- ・出荷車両はフォークリフトとなる。
  - ・出荷入口建具は電動重量シャッター (W=4.0m、H=4.5m 程度) とする。
  - ・出荷室入口上部に庇を設ける。
  - ・出荷室天井には防鳥ネットを貼る。
  - ・床の防塵塗装などは不要。
- (4) 機械室
- ・プラント機器の配置に基づき、メンテナンス作業等の支障が無い程度にフロアの範囲を決めること。
  - ・各階層への昇降階段はメンテナンス作業等に支障が無い様に適切に配置すること。
  - ・内部機械に必要な給気用開口を設けること。ゴミ等の流入が無い様に金属製網を設置すること。また、施設未使用時はシャッター等で閉鎖が出来ること。(集塵設備との連動は不要とする。)
  - ・粗選機基礎は鉄筋コンクリートとし、1 階から立上げる。
- (5) 火炉室
- ・乾燥設備に必要な給気用開口を設けること。ゴミ等の流入が無い様に金属製網を設置すること。
  - ・一般取扱所などに該当する場合は必要な構造、設備とすること。
- (6) 操作室
- ・荷受室横側、1 階に設ける。
  - ・荷受室内部にプラント設備の主操作盤を設ける。
  - ・2 名程度の職員で運用を行う。
  - ・冷暖房設備、給排水設備、給湯設備、流し台設置。
  - ・トイレは不要。
- (7) コンプレッサー室
- ・プラント工事で設けるコンプレッサー、エアタンク類を設置する。
  - ・コンプレッサーの給気も考慮すること。
- (8) 電気設備
- ・既存麦乾施設キュービクルから動力分岐する。
- 本施設の建設により既存臨時受電を常時に変更する。
- 隣接して建設する出荷貯蔵施設も麦乾施設から動力分岐するため、キュービクルの増改造は別途とする。
- 既存麦乾施設からラック乾燥施設までの動力引込はプラント工事にて見込む。

- ・電灯設備：LED 照明とし、蛍光灯型・高天井型など場所に応じ適正に配置すること。
- ・コンセント設備：プラント設備に必要な物を除き、適宜配置すること。
- ・動力設備：プラント設備に必要な物を除き必要であれば適宜配置する。
- ・自火報設備：法に則り適正に配置すること。  
本施設発報信号を既存計量棟総合盤に接続する。
- ・弱電設備：電話機本体および電話回線は別途工事とし、空配管のみ本設計に含む。
- ・構内通信設備：プラント設備に必要な物を除き、適宜配置すること
- ・避雷設備：法に則り、適正に配置すること。

(9)機械設備 ・給水設備：既存構内管分岐とし、操作室の流しまで引き込むこと。

屋外に散水栓 1 か所設置する。

- ・排水設備：流し、手洗いなどの排水は浸透枳処理とする。
- ・給湯設備：給湯機は流し部に設置し、LP ガスを用いる給湯とする。
- ・冷暖房設備：操作室には冷房設備としてパッケージエアコンを設置する。暖房は灯油ストーブとする。灯油タンクや配管も見込むこと。
- ・換気設備：居室廻りは必要であるが、荷受室なども必要に応じ適宜設置する。
- ・燃料タンク：乾燥機用燃料の地上タンク、防油堤を設ける。タンク容量は燃料消費量の 2 日分とする。上下限レベル計、下下限レベル計、油面警報装置、オイル流量計、サービスタンクおよび基礎を設ける。乾燥機までの油配管も見込むこと。

4. 見積項目：補助プラント工事、自費プラント工事、実施設計料を合算して入札する。

以上